

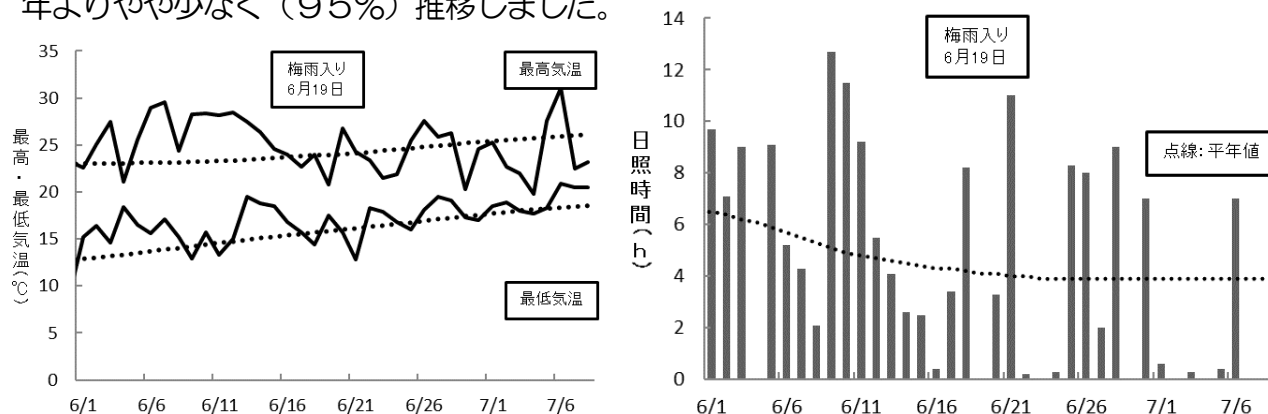
令和3年産 仙南稲作情報（第4号）

令和3年7月9日発行
宮城県大河原農業改良普及センター
TEL：0224-53-3431 FAX：0224-53-3138
※この資料に関する問い合わせは、
上の連絡先までお願いします。

- 南部平坦地帯の中生品種は、概ね幼穂形成期に達しています。
- 低温時は深水により幼穂を保護しましょう。
- いもち病注意報発令。穂いもちの予防防除を！

1 気象経過（丸森アメダス、6月1日～7月8日）

- ・6月1日～7月8日までの天候は、6月19日の梅雨入り前後まで比較的好天が続いたものの、7月に入り曇天や雨が続いたため、平均気温は平年よりやや高く（+1.0℃）、日照時間は平年よりやや少なく（95%）推移しました。



※仙台管区气象台（7/8 発表）の「向こう1か月の天候の見通し」では、期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多く、期間の後半は、天気は数日の周期で変わる見込みです。

2 管内の生育状況

(1) 【7月9日調査結果】

草丈・茎数・葉数は平年並み、葉色はやや淡い、幼穂長も平年並み（概ね幼穂形成期に到達）

- ・南部平坦の「ひとめぼれ」は、幼穂長が5mmを超え概ね「幼穂形成期」を過ぎています。
- ・南部平坦の「つや姫」は、5月上旬植えでは、幼穂長が1mmを超え概ね「幼穂形成期」に達しているとみられますが、5月下旬植えでは、幼穂長が1mm未満で間もなく「幼穂形成期」に達するとみられます。
- ・西部丘陵の「ひとめぼれ」は、茎数が平年よりも多く、葉数も平年よりも進んでいます。幼穂長は2mmを超え「幼穂形成期」に達しているとみられます。
- ・山間高冷の「やまのしずく」は、茎数が平年よりも多く、葉数は平年並みで進んでいます。幼穂は確認できませんでした。

□ 皆さんのほ場と場所や品種、田植日が近いところのデータを参考にして下さい。

表1 管内の生育調査結果 (7月9日)

No	ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈			茎数			葉数			葉色			幼穂長		
				本年	前年	(cm)	平年比	前年比	(本/m ²)	平年比	前年比	(枚)	平年差	前年差	(GM)	平年差	前年差	(mm)	平年差	前年差
1	角田市	南部平坦	ひとめぼれ	5/14	5/16	61.4	98	92	443	97	100	11.0	▲0.8	▲1.0	35.9	▲2.5	▲5.6	7.2	0.1	5.4
2	大河原町	南部平坦	ひとめぼれ	5/8	5/9	69.9	105	105	586	99	93	11.7	0.5	0.2	39.3	1.1	2.5	5.2	0.2	0.2
南部平坦平均 ひとめぼれ				5/11	5/12	65.7	101	99	514	98	97	11.4	▲0.1	▲0.4	37.6	▲0.7	▲1.6	6.2	0.1	2.8
3	角田市	南部平坦	つや姫※	5/20	5/23	64.0	99	103	545	106	112	10.4	▲0.7	▲0.6	45.2	1.5	1.4	0.4	▲0.1	0.2
4	村田町	南部平坦	つや姫※	5/4	5/5	62.3	97	101	455	90	102	10.9	▲0.4	▲1.0	41.2	▲2.0	0.0	1.9	1.0	0.1
5	白石市	西部丘陵	ひとめぼれ※	5/15	5/19	60.9	114	121	439	132	119	11.5	0.9	0.8	40.0	▲1.2	▲0.1	2.1	1.0	1.9
6	七ヶ宿町	山間高冷	やまのしずく	5/22	5/23	54.4	103	91	508	128	84	10.0	0.3	▲0.2	43.5	▲3.1	▲4.4	0.0	▲0.7	0.0

◆ 平年値は前5か年(H28~R2)の平均値

※ 白石市小原「ひとめぼれ」(調査5年目)は、西部丘陵「ひとめぼれ」の平年値との比較

角田市「つや姫」(調査3年目)及び村田町「つや姫」(調査2年目)は、南部平坦「つや姫」の平年値との比較

(2) だて正夢について

- 南部平坦の「だて正夢」は、幼穂長1mmを超え「幼穂形成期」に達しています。茎数は、前年よりも多く、有効茎数が確保されています。葉色は前年よりも3ポイント弱淡くなっています。
- 西部丘陵の「だて正夢」は、幼穂長1mm未満で、間もなく「幼穂形成期」に達するとみられます。草丈・茎数・葉数は前年並みで、葉色は前年よりも2ポイント弱濃くなっています。

ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈		茎数		葉数		葉色		幼穂長	
			本年	前年	(cm)	前年比	(本/m ²)	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差	(cm)	前年差
角田市	南部平坦	だて正夢	5/4	5/5	71.9	100	421.2	113	11.5	0.3	39.9	▲2.9	4.6	2.1
蔵王町	西部丘陵	だて正夢	5/19	5/19	68.3	100	466.6	99	9.8	0.0	46.2	1.9	0.2	▲0.8

3 今後の管理

(1) 生育ステージの予測

○ 今後は、生育状況に応じた追肥や、病害虫防除の実施が重要です。

○ 生育ステージは、「ほ場ごと」に異なるので、「ほ場ごと」に幼穂長を測定し、正確な生育ステージを把握しましょう。

表 幼穂の発育過程と出穂期までの日数等の目安

発育過程	幼穂形成期	減数分裂期	
		始期	終期
出穂前日数	25日	15日	12日
幼穂長(mm)	1~2	30~40	80~100
葉耳間長(cm)	-	-10	±0

(2) 水管理

① 中干し後の水管理

- 幼穂形成期までに、中干しは終了します。
- 中干し終了直後は走り水程度とし、その後は間断かん水を行い、根に十分に水分を与えつつ酸素を供給しましょう。

💡 倒伏が心配される復元田等では、目標茎数を確保後、落水期まで飽水管理としましょう。飽水管理とは、田面の足跡に水がなくなったら入水し、土が十分湿ったら落水する、を繰り返す、根の健全化と茎の充実を図る栽培法です。ただし、出穂開花期は湛水します。

② 低温時の水管理

- 幼穂形成期から出穂開花期にかけては、低温の影響を特に受けやすい時期で、中でも減数分裂期は、稲が最も低温に弱い時期です。
- 低温時（日平均気温 20℃以下又は最低気温 17℃以下）には、深水管理とし、幼穂を低温から保護しましょう。
- 幼穂の伸長に合わせ、段階的に水深を深くすることが重要なので、けい畔の補修を今うちに行いましょう。

《深水の目安》

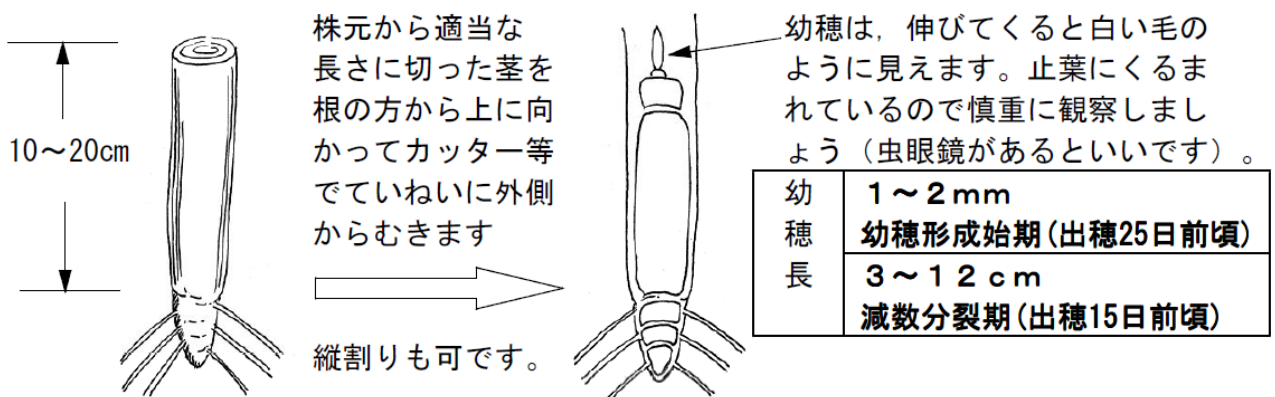
幼穂形成期（出穂 25～15 日前）：水深 10cm
減数分裂期（出穂 15～10 日前）：水深 17～20cm

(3) 追 肥

□ 幼穂長を確認して、適期に追肥をしましょう。

- 追肥は、幼穂長を調べて、「幼穂形成期」又は「減数分裂期」に行いましょう。
※品種によって、追肥回数や追肥時期が異なりますので、次項を参照ください。
- 幼穂形成期の追肥は、分けつの退化防止と 1 穂粒数の増加に効果的です。
しかし、窒素供給が過剰だと、下位節間を伸長させ倒伏を引き起こしたり、粒数過剰となり登熟不良を招いてしまいます。
- 減数分裂期の追肥は、白未熟粒の発生を低減するほか、登熟期の光合成能力向上により乳白粒の低減等が期待されます。

【幼穂長の調べ方】



株元から適当な長さに切った茎を根の方から上に向かってカッター等でいねいに外側からむきます

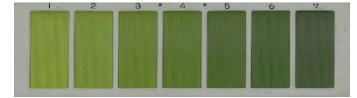
縦割りも可です。

幼穂は、伸びてくると白い毛のように見えます。止葉にくるまれているので慎重に観察しましょう（虫眼鏡があるといいです）。

幼穂長	1～2 mm
	幼穂形成始期(出穂25日前頃)
幼穂長	3～12 cm
	減数分裂期(出穂15日前頃)

□ 追肥の判断について

- ・葉色を測定して、葉色が目安の範囲内以下でしたら、追肥をしましょう！
- ・葉色の測定は、「葉緑素計（SPAD-502）」又は「葉色板（富士平工業の7段階表示のカラースケール）」を用います。
- ・下表の葉色板又は葉緑素計の値から追肥の判断ができます。



葉色板(単葉)と葉緑素計の関係

葉色板(単葉)	4.5		5.0			5.5		6.0			6.5				
葉緑素計	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48

※幼穂形成期における施肥判断の目安

ひとめぼれ	←————→
つや姫・まなむすめ	←————→
だて正夢	←————→

○穂肥要否判定指標値及び目安

品種名	幼穂形成期			減数分裂期		
	葉色		施用時期と窒素量	葉色		施用時期と窒素量
	葉色版	葉緑素計		葉色版	葉緑素計	
ひとめぼれ	5.0~5.5	38~40	出穂25~20日前 1kg/10a	4.5~5.0	35~37	出穂15~10日前 1kg/10a
つや姫・まなむすめ	3.9~4.2	35~37	出穂25~20日前 2kg/10a	—		
ササニシキ	—			3.4~3.7	32~34	出穂15~10日前 1~1.5kg/10a
だて正夢	—			5.0	37~39	出穂15~10日前 2kg/10a

※「だて正夢」の追肥について

- ・「だて正夢」の追肥は、減数分裂期に窒素成分で2kg/10aを施用することが基本です。
- ・ただし、有効茎数の不足が予想される場合は、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分でそれぞれ1kg/10aずつ施用してください。

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈(cm)	64~70	76~82
茎数(本/m ²)	390~460	380~420
葉色(SPAD値)	40~42	37~39
葉色板(単葉)	5.5~6.0	5.0

【 病虫害防除 】

① いもち病

- ・ **いもち病の注意報が発表されました(7月9日)。**
- ・ **ほ場の見回りと穂いもちの予防防除に努めましょう。**

- ・ 病虫害防除所の巡回調査で県南部で葉いもちの発生が確認されています。
- ・ 葉いもちの感染に好適な気象条件(19~25℃)が続いており、上位葉の葉いもちが穂いもちの発生源となるため、今後重要な時期が続きます。
- ・ 箱施用剤を使用している場合でも7月中旬以降効果が低下するため、ほ場の見回りを行い、発生が見られた際は速やかに茎葉散布剤で防除してください。

② 斑点米カメムシ類

□水田周辺の雑草地、農道、けい畔などの草刈りは、遅くとも7月20日までに終わるようにしましょう。

※本県の主要種であるアカスジカスミカメに対しては、幼虫の発生時期である7月半ば頃の草刈りが密度抑制に効果的です。

※稲の出穂期前後に刈取ると、カメムシ類を水田に追い込んでしまうので、刈取時期を逸さないようにしましょう。

□出穂期以降の薬剤防除

- 薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。
- ホタルイ残草田では、1回目の防除時期を早めましょう（出穂始～穂揃期）。
- 出穂後、やむを得ず水田周辺の牧草等を刈取の場合は、刈取り後直ちに水田の薬剤防除を実施しましょう。

□雑草刈取り及び薬剤防除は広域的に行うと効果が高いので、地域一斉防除に努めましょう。

□水田内にヒエやイヌホタルイ等の雑草があると、出穂前でもカメムシ類を水田に呼び寄せてしまいます。出穂前に、水田内の雑草を防除しておきましょう！



斑点米カメムシ類の防除対策

5～6月	7月	8月	9月
移植期		穂揃期	7～10日後
		● 薬剤防除（1回目）	● 薬剤防除（2回目）
	● 水田内の雑草対策	● 畦畔・雑草地の草刈管理	● 牧草地の適正な刈り取り管理

< 斑点米カメムシ類 >

※本県の主要種：アカスジカスミカメ

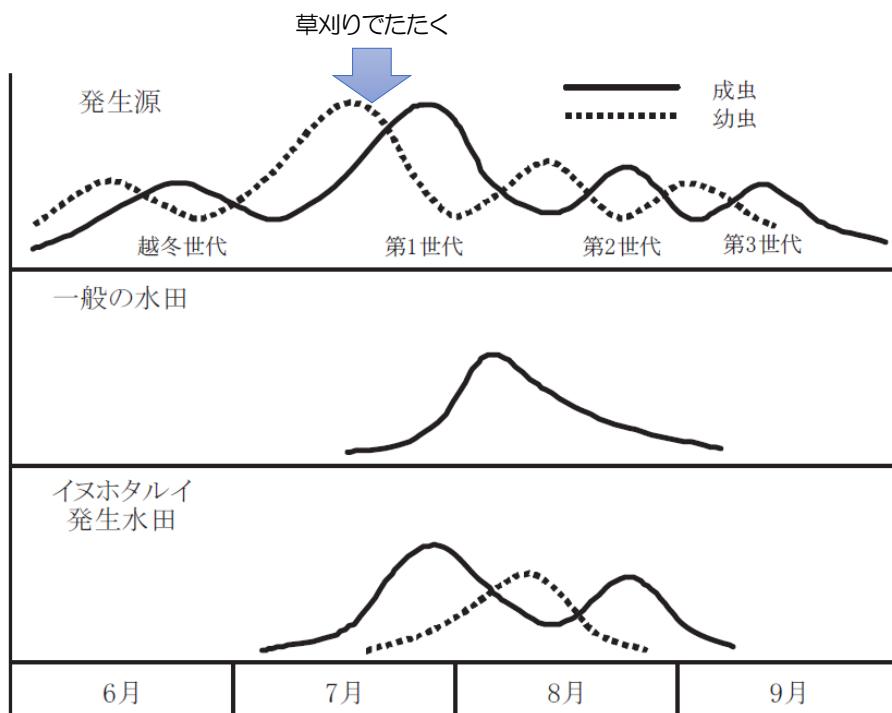


図 アカスジカスミカメの発生源及び水田における発生消長

4 直播栽培における管理のポイント

【7月9日調査結果】

- ・湛水直播栽培の普及展示ほの生育について、草丈・茎数・葉数・葉色は前年並みです。有効茎数は十分確保されています。

□ 直播きの生育調査結果

ほ場所在地	品種	播種月日		苗立数(本/m ²)		草丈		茎数		葉数		葉色	
		本年	前年	本年	前年	(cm)	前年比	(本/m ²)	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差
蔵王町	ひとめぼれ	5/11	5/9	69.3	59.4	56.4	101	562.7	103	10.0	0.2	44.3	0.3

① 水 管 理

- ・中干し以降の水管理は、基本的には移植栽培と同じで、原則として間断かん水とします。

② 追 肥

- ・減数分裂期に1回、窒素成分量で10a当たり1kgが基本です。
ただし、倒伏等の恐れがある場合は行わないようにしましょう。

③病害虫防除

【葉いもち】

- ・葉いもちの早期発見・早期防除に努めましょう。
- ・一旦発病すると移植栽培より急激に病勢が進展する場合がありますので、初発の確認が遅れないようしましょう。

【イネツトムシ（イチモンジセリ）】

- ・イネツトムシは、直播栽培で多発し、大きな被害を及ぼすことがあります。
- ・直播栽培では、7月中旬頃の葉色が濃く、成虫が集中して産卵するので、移植栽培に比べて被害が多くなります。
- ・被害に気がついたときには、殺虫剤の効果が出にくい中～老齢虫になっており、防除適期を逃していることがよくあります。
- ・発生予察情報や現場の発生状況をもとに、8月上旬頃の若齢幼虫の発生最盛期に防除しましょう。

○令和3年度宮城県農薬危害防止運動実施中（6/1～8/31）

- ・最新情報で農薬登録を確認してから、使用しましょう。
- ・農薬使用の際には、周囲の作物を確認し、飛散防止対策を講じましょう。